

会 議 録

会議の名称	平成30年度第3回本庄市総合教育会議
開催日時	平成31年1月21日(月) 午前・午後 1時40分から 午前・午後 2時50分まで
開催場所	本庄市立本庄南中学校 視聴覚室
出席者	構成員：吉田市長、勝山教育長、富沢教育長職務代理者、今井委員 教育委員会事務局：稲田教育委員会事務局長、高橋教育委員会事務局次長兼教育総務課長、木村学校教育課長、野口教育総務課長補佐 事務局：山下部企画財政部長、笠原企画課長、折茂企画課長補佐、桜沢主事 同席者：中田保健部長、伊平健康推進課長、丸山健康推進課長補佐
欠席者	落合委員、岡崎委員
議題 (次第)	1 開 会 2 市長挨拶 3 教育長挨拶 4 議 題 (1) 本庄市自殺対策計画について(意見交換) (2) その他(当日の視察内容等について) 5 そ の 他 6 閉 会
配付資料	・次第 ・資料1：本庄市自殺対策計画(案) ・資料2：本庄市教育大綱
その他特記事項	なし
主管課	企画課

会議の経過	
発言者	発言内容・決定事項等
事務局（企画課長）	<p>本日はお忙しいところ、平成30年度第3回本庄市総合教育会議にご出席を賜りまして誠にありがとうございます。これより、会議を始めさせていただきます。</p> <p>なお、岡崎委員より欠席の連絡をいただいておりますので、ご報告いたします。また、落合委員は遅れておりますが、参加の予定となっております。</p> <p>本日は、傍聴の希望者はありません。</p> <p>それでは、次第に沿って会議を進めさせていただきます。</p>
事務局（企画課長）	<p>次第2「市長あいさつ」でございますが、開会にあたりまして、吉田市長よりお願いします。</p>
市長	<p>本日は、平成30年度第3回本庄市総合教育会議ということで、本庄南中学校までお越しいただき、ありがとうございます。</p> <p>皆さんには、先程、施設内を視察していただきましたが、施設整備の重要性を改めて感じております。前回の会議は児玉中学校、そして今回の会議は本庄南中学校を会場といたしました。来年度以降の会議につきましても市内の学校を会場として、視察を含めた会議としたいと考えております。</p> <p>本日の会議内容といたしましては、本市で現在進めております「自殺対策計画」につきましても、教育委員の皆さんと意見交換をしたいと思っております。また、本日の視察内容につきましても、ご意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。</p>
事務局（企画課長）	<p>ありがとうございました。続きまして、次第3「教育長あいさつ」でございますが、勝山教育長よりお願いいたします。</p>
勝山教育長	<p>平成30年度第3回本庄市総合教育会議ということで、本庄南中学校へお越しいただきましてありがとうございます。</p> <p>市長が今年の年頭の訓示のなかで「観る」という言葉を掲げ、そのなかに「現場を観る」というお話がありました。私は、本日の午前中は本庄南小学校の2時間目と3時間目の授業の視察がありまして、その後でこちらにまいりましたが、こうして現場に来てみると、いろいろなことがわかりますし、私自身、子供たちから元気やパワーをもらえると感じております。</p> <p>本日の議題は、非常に重い問題でございます。また、2点目につきましては、本日、本庄南中学校をご覧になった感想等を含めて、ご意見を出していただけたらと思います。どうぞよろしくお願いいたします。</p>
事務局（企画課長）	<p>ありがとうございました。それでは、ここで配布資料の確認をさせていただきます。</p> <p>本日の資料といたしまして、</p> <p>① 本日の次第</p>

	<p>② 資料1：本庄市自殺対策計画（案）</p> <p>③ 資料2：本庄市教育大綱</p> <p>以上3点でございます。不足等はございませんでしょうか。</p>
事務局（企画課長）	<p>続きまして、次第4の議題に入らせていただきます。「本庄市総合教育会議運営要綱」第4条第1項の規定により、市長が本会議の議長となることとされております。これからの議事の進行につきましては、市長にお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。</p>
市長	<p>要綱に基づき、議事の進行をさせていただきます。会議のスムーズな運営にご協力をよろしくお願いいたします。</p> <p>本日の会議録でございますが、「本庄市総合教育会議運営要綱」第7条第2項の規定により、「会議録には、市長及び市長が指名する1人の構成員が署名するものとする」とあります。本日の会議録につきましては、私と勝山教育長が署名するというところでよろしいでしょうか。</p> <p style="text-align: center;">（異議なし）</p> <p>それでは、事務局にて作成された会議録につきましては、本日出席の皆様の確認の後に、署名を行うこととします。</p>
市長	<p>それでは、早速議事に入らせていただきます。まず「議題（1）本庄市自殺対策計画について」事務局より説明をお願いします。</p>
（1）本庄市自殺対策計画について	
健康推進課長	（資料に基づき説明）
市長	<p>ありがとうございました。それでは、これより、本庄市自殺対策計画について皆様よりご意見をいただけたらと思います。</p>
今井委員	<p>本庄市自殺対策計画ということで、資料のなかには若年層についての結果も出ていましたが、その対策としては2つに分けられると思います。1つは、既に病んでしまった方々に対して対策やケアをしていくこと、もう1つは、そうならないための対策を子供たちへの教育的な部分に織り込んでいくことです。今は学校における学び方も随分変わってきていて、学力以外の能力も重要視されてきています。この教育方針が上手くいけば、子供のなかの自己肯定感やチャレンジ精神等の気持ちが育まれて、自然と自殺者が少なくなるのではないかと考えています。</p>
市長	<p>資料1の10頁にもあるように、自殺というのは単純な1つの原因から起こるわけではなく、いろんなことが複合的に絡んで、追い詰められた結果、自殺に至るというケースがほとんどであると思います。そうすると、この資料にあるような自殺に至るまでの様々なリスクをどのようにして減らしていくかということを総合的に対策していくしかないと感じました。自殺の前にはうつ状態になりますが、そのうつ状態の原因は様々で、生活苦であった</p>

	<p>り、家庭の不和であったりします。その家庭の不和も結局のところ、生活苦が原因であったりと、本当に複合的な形で追い込まれていきます。当然このなかでは、教育も非常に大きな役割を果たしていると考えております。様々な要因の結果として自殺に至ってしまったと考えると、その様々な要因をどのように取り除いていけるかということが大切です。今井委員がおっしゃったように、教育の分野においていろんなことを先生が子供たちに教え、遅しく生きていく心構えを子供たち自身が身に着けていくことが大事だと思っています。</p>
富沢委員	<p>自殺の死亡率を下げるということが、当面の短期目標になると思います。就学時の自殺防止というのは大変重要な問題ですが、戦略的に考えると、自殺者の割合は年金・雇用保険等生活者が圧倒的に多く、これを減らすことが重要になってくると思います。</p> <p>また、資料1の7頁に本庄市の原因・動機別の自殺者数が載っています。このなかで、健康問題が原因と回答した人が54人で圧倒的に多いのですが、健康問題で亡くなったというのはどういうことかという分析がここには全く書かれていません。10頁については、市長がおっしゃったように、自殺については多因子だということが載っていますが、例えば、図1-15について、健康問題のことだけを考えると、身体疾患から直接自殺となるか、もしくはうつ状態になってから自殺となるかの2パターンしかありません。その他の原因として挙げられている生活苦や家族の不和というのは、7頁の図1-9をみると確かにありますが、健康問題による方が圧倒的に多いと解析されています。このことに関する詳細が全く分析されていないように思うのですが、健康問題で自殺に至るといえることはどういうことなのか、疑問に思いました。健康問題が原因で自殺する方が多いのであれば、病院へたくさん通い、身体疾患を軽減すれば解決するのかといえば、そうではなく、これでは解決にはなりません。</p> <p>1つは年金・雇用保険等生活者の自殺者が多いことについて、これを減らすにはどうしたらいいのかということ、もう1つは自殺の原因として一番多いとされる健康問題についての解釈をもう少しすることの2点について、さらに解析をした方がいいのではないのでしょうか。また、健康問題のなかには、うつ状態になったということを含めて健康問題としているのでしょうか。</p>
健康推進課長	<p>この資料の統計については、地域実態プロファイルというものが基になっています。これは国から指定されているプロファイルです。市が全て自分たちで計画を作りなさいと言われたときに、市では人数が足りなかったり、市の職員では解析しきれないということがあったりします。そのため、国が自殺総合対策センターというのを設立しました。そこで警察の統計を基にファイリングされたものを本市の計画に使用しています。そのなかで、健康問題にはうつ状態であることも含めて、一括りに解析されています。</p>

	<p>細かく解析されたものは国から示されていないというのが現状です。</p>
富沢委員	<p>自殺でよく使われるのは死体検案書です。ごく一部、うつ病の場合は死亡診断書になることもありますが、通常は死体検案書が使われます。そうすると、死体検案書のなかには不慮の事故または自殺ということが入りますが、どうしてそのようなことが起こったのかという理由については、検案員もしくは警察の資料から転写してくるケースが多いという現状があります。そうすると自殺の原因は、練炭を炊いたこと等となりますが、この計画を作るに当たっては、そのような詳しい原因まで解析することが望ましいのではないのでしょうか。そうでもしないと、健康問題が原因として一番多い、というだけでは何をすればいいかわかりません。</p> <p>また、この計画ではうつで亡くなるということを一括りに捉えられています。うつ病というのは、致命的なうつ病と、その前の段階のうつ状態に分けられます。うつ状態になるには、原因があって、そこになんらかの介入をすることによって、自殺から遠ざけることができるという仮説があります。実際、職場でチェックリストが導入されて、自殺が減ってきているというデータがあります。それはどうしてなのだろうと思っているのですが、突然上司や会社が適切で素晴らしい対応ができるようになったということはなかなか考えられません。心当たりとしては、そのチェックリストですごく高いスコアだった人、あるいは希望のある人は、医者とも誰ともいいから面談をするということがあります。この面談が、短くても30分、長いと1時間半とか、それくらいの時間をもって語らせてやると、それで結構良くなったりします。話を聞いて、アドバイスをすることが大切なわけではなくて、話を聞いてやること自体が大切で、そこにはあまり専門的な知識は必要ありません。それがある程度、自殺の減少につながっているのかなという気がします。そうすると、これを市として考えるときには、健康問題の内容についてももう少し細かく解析をして、自殺に繋がったうつ状態の原因が企業的に解決できるものなのか、市民のなんらかの仲介で解決できるものなのか、あるいは社会から隔絶された閉じこもりになってしまっているのかということさらには解析する必要があると思います。この資料をみると、年金・雇用保険等生活者の方が多くなっている。ある程度企業から離れたところで起こっている問題であり、これは市の責任ということになると思います。そうすると、先程もお話した、健康問題の一括りで片づけられているところの背景にある、うつ状態の人とうつ病の人がそれぞれどれくらいの割合でいるのかということについて解析し、具体的にどこの課が動くべきであるかということを考えていく必要があると思います。</p>
市長	<p>まずこの健康問題ということについて、実際に自殺をして亡くなった方々の背景をどこまで調べられるのか、そのアプ</p>

	<p>ローチについては、どうでしょうか。私も、富沢委員のご意見を聞くと、手がかりとして良いのではないかと思うのですが、いかがでしょうか。</p>
保健部長	<p>自殺者の健康問題の内容について、踏み込んで分析するというのは、なかなか難しいところがあると思うのですが、例えば、認知症の患者は、今までは、だんだん家族から孤立し、社会からも隔絶され、自殺に至ることが多かったのですが、これを防ぐために、認知症で悩んでいる方やその家族を孤立させないためのオレンジカフェ等の取組みが行われています。また、保健部では、市民の方や市の職員に対してゲートキーパーの講座を開き、自殺に追い込まれそうな人が出しているSOSに気づき、話を聞いてあげられるように、それから本人が周りに向かってSOSを出すことができるように支援しています。そのことについて、普及啓発も行っていきます。このような取組みが本市の計画のなかにありますので、これを積極的に進めていくことで、自殺者を減らしていきたいと考えています。</p> <p>また、富沢委員がおっしゃっていたとおり、ただ健康問題と言っても、精神的な問題であったり、あるいは末期がんのようにこれ以上生きていても家族に迷惑をかけてしまうからということであったり、原因は様々であると思います。今後、出来る範囲で分析できるように考えていきたいと思っています。</p>
勝山教育長	<p>学校の学習の仕方について、今井委員からもお話がありましたが、ちょうどこの教室の壁に貼ってある「南中の学び（グループ学習）」をみると、「自分からここ教えてと友達に訊く」や「訊かれたらきちんと教え、学びを深める」と書かれています。本日視察をしたなかでも、グループ学習をしている場面がいくつかありましたが、こういうことが深まってくると、自殺率の減少に繋がってくる部分があるのかなと思います。わからないことや困ったことは自分から聞ける、また聞かれた方もきちんと対応するという関係は、普段の学習を通して、自殺予防に資する部分があるのかなと感じました。</p> <p>それから、資料1の21頁の中学生のアンケートのところですが、悩んでいることや気がかりなことということで、勉強のことと将来のことに続いて、「その他」という項目が多くなっています。この「その他」には、どのようなことがあるのかなと気がかりなところではあります。また、その下の相談相手については、友だち、親、学校の先生という順番になっていますけれども、「相談する人はいない」と答えた子が5.3%いるというところを、どのように分析するのかというところがあります。さらに、ここでは悩みや不安と一括りにしていますが、悩みや不安の程度によって相談する人が違うと思うので、その悩みや不安の質によってアンケートをとるとまた違う結果が出てくる可能性もあるかと思いました。</p>

	<p>23頁についてですが、どうしたらいじめを減らしたり、解決したりできるかという質問に対して、回答としては、学校にいじめをゆるさない雰囲気を作るといふことといじめに気がついたらすぐに先生や友だちに知らせるといふこと、それからいじめの相談がしやすいようにするといふ3つが多くなっています。これは、大人がいじめの対策として捉えていることと重なると思います。現在、学校でもこういったことに取り組んでおりますので、子供たちもその意識が高くなっている部分があるし、また、こういったことを子供たちももっと進めていってほしいと考えているのかなと感じました。改めて、学校の方でも、このことについてしっかり取り組んでいく必要があると思った次第です。</p> <p>27頁の数値目標についてですが、わからなくはないのですが、「誰も自殺に追い込まれることのないまち」と言っているのにも関わらず、数値目標を「0」としないことに違和感を感じました。</p>
市長	<p>この数値目標については、難しい問題ですね。まさに生死に関わることですから、0としたいところですが、現実的な問題もあります。</p> <p>私は、先程富沢委員がおっしゃったなかで、話を聞いてあげることが一番大事かなと思います。原因は千差万別で、大変気の毒なことですが、心の病気で後戻りがきかないような状況になってしまっている方々がいます。そのような状態になってしまう前の段階で話を聞いてあげること、救われる人がいるということは確かにそうだと思います。</p>
富沢委員	<p>教育長もおっしゃったように、21頁の中学生アンケートのところで、相談相手については親と友だちが著しく多いですが、この相談をしている子は自殺しないと思います。このアンケートの結果をどのように解析するかというところですが、日常的にこれをしている子は自殺する可能性は低く、問題となるのは、相談する人がいないと回答した子供たちへの対策についてです。実は私の息子が臨床心理士をしていて、何校かのスクールカウンセラーを受け持っているのですが、中学生が自殺で亡くなった場合、担任の先生の責任という話が出てきます。本当に担任の先生を責められるのだろうかということもあると思います。担任の先生も少し問題があるなと感じていても、そこに多大な時間を費やすことは難しいとなったときに、スクールカウンセラーが話を聞いてあげることが一番だと思います。さらに、スクールカウンセラーのなかでもベテランの良くわかっている方が話を聞くのが一番良いのではないのでしょうか。息子は千葉の方の学校に行っているのですが、週に何回行くということが決まっているわけではなく、問題があった学校に対して、徹底的に行って話を聞くということになっているようです。定例的に、例えば、第2と第4火曜日にスクールカウンセラーが来ます、というような悠長なことを言っていたらだめだと言っていました。病気を治すという感覚があるな</p>

	らば、曜日や時間に捉われずにどんどん行かなければなりません。子供たちを担任の先生だけに任せて、先生がみていなかったせいだ、というのではなく、何かあったらスクールカウンセラーに相談するといったカウンセリングシステムを作っていくことが現実的だと思います。
保健部長	富沢委員がおっしゃるように、会社勤めの人の自殺が減少傾向にあるというのは、今までよりも自殺対策についてそれぞれの会社に取り組んでいるということが要因の一つであると思います。うつになりそうな人がいたら、早い段階でご家族等と相談しながら、専門家の先生への受診を勧めたり、心療内科の先生からカウンセラーを紹介されて、そこでよく相談して、時間をかけて問題を解決したりということが、徐々に普及してきたというのが、効果が上がってきた要因だと思っています。学校の方でも、スクールカウンセラーや心療内科の先生も含めて、子供たちに関わっていくことが重要であると考えています。
今井委員	私の職場でも、年に1回、ストレスチェックをすることになっています。病気になる人というのは自分が病気になっているのかどうかも確認できないので、そういうシステムがあると、自分はストレスを受けているんだということを自分自身が把握することができ、病院に行こうとかカウンセリングを受けようという気持ちになるかもしれません。
市長	そういうチェックができる体制が大切なのでしょうね。高齢者の方で家にいる方は、加齢とともに病気になっても客観的にチェックが出来ず、話し相手もないために追い込まれてしまうのかなと思います。やはり、それぞれが置かれている状況別でケアをしていくしかないと思います。学校におけるケアの仕方については、今回多くのご意見をいただきましたので、参考にさせていただきたいと思います。ありがとうございました。
(2) その他 (当日の視察内容等について)	
市長	続きまして、次第に基づき、本日、本庄南中学校をご覧いただいて感じたこと、気づいたこと等、自由に意見交換をしていただけたらと思います。
今井委員	私は以前、臨時の教員として本庄南中学校にいたことがありますが、その時に感じられた暗いイメージとは違い、今は掲示物等も綺麗に貼られていて、教育環境が子供に対する安定をもたらすというところもあるのかなと思いました。先生方の努力もあるでしょうし、教育委員会の努力もあると思うのですが、教育は変わっていくのだなと感じました。当時は学力重視で、勉強が出来なければだめだというような風潮がありましたが、そのことが子供たちを締め付けて、爆発させてしまっていたのかなと思います。
富沢委員	市内には、新しい建物の中学校が2校、古い建物の中学校が2校ありますが、どの中学校も廊下の掲示物がとても豊富で、皆さ

	<p>ん努力されていると感じました。私が中学生の頃は廊下には何も貼ってありませんでしたが、どのような要因から変わってきたのでしょうか。あらゆる場面で自分たちが参画するようになり、自己肯定性に影響してくると感じます。これは素晴らしいなと思っていて、建物のなかを少し修繕したらもっと良くなるだろうというのは当然そうですけれども、本日本庄南中学校を視察して、建物のなかが冷え冷えしていると感じたので、なにか暖かい感じのものが置けたらいいなと思いました。学校を建て替えるには何十億という予算が必要になるでしょうし、トイレの修繕だけでも億単位だと思うので、どの程度の予算がつけられるのかわからないのですが、なんとか捻出できるところで、建物内を暖かくできるものはどんなものがあるのか、と工夫することが大切ではないかと思います。</p>
市長	<p>私は以前、ときがわ町へ視察に行ったことがあります。老朽化した校舎があつて、それを耐震化することはできるけど、建て替えることはできないという状況のなかで、ときがわ町は木材の産地であることから、床と腰壁までを木で張り巡らせて、木の良さをきちんと活かせる塗料を塗って、あまりお金を掛けずに、内装を木質化したという事例について視察をしてきました。それをみたときに、これはいいなと感じました。木の内装は暖かみがあつて、校舎を使う人たちから冷えが解消されたという声もあったそうです。本市においても、建物の耐震化が終わって、エアコン、トイレの問題が解決したら、内装について考えたいと思つているところです。小学校まで含めるとたくさん校舎があつて、1年に1棟建て替えたとしても、サイクルが回ってくる前に老朽化してしまいます。1校あたり、2棟の校舎と体育館というように考えると、市内には全部で16校ありますので、単純計算すると48棟ということになります。これでは48年かかってしまいますので、古いところは新しくしていかなければと思うと同時に、築年数が35、6年の中学校についてはどのようにしていくべきかと悩ましく思っています。</p>
教育委員会事務局長	<p>長期的な面でいくと、市内の学校の規模を考慮しながら、どのように更新していくかという計画を持っていなければならないと思つています。学校の校舎が似たような時期に建てられているということがあつて、少し難しい面があると感じています。そう考えると、鉄筋コンクリートの建物とすれば、メンテナンスを良くすれば寿命も延びますので、まずは長寿命化を図るとともに、きちんと環境を整えるという計画を立て、その後に長期的な更新の計画を作った方が良く思っています。</p>
市長	<p>そうすると、本庄南中学校や本庄西中学校の建物は、今はこのままですが、内装をどのように綺麗にしようか、利便性をどのように図ろうかということを考えながら、もう少し長く使っていけるようなやり方になると思っています。このことについて、事前に話</p>

	<p>し合っておき、トイレの改修が終わったら、すぐに手を付けられるようにするのがいいのではないかと思います。</p>
勝山教育長	<p>市内の中学校、4校のうち、2校はすでに新しい校舎になっていますので、残りの2校について、少し手を入れていただければ、市内の中学生全員が環境の整った学校で過ごせるということになります。今、子供たちも一生懸命清掃をして、学校を大切にしようという気持ちを持っていますので、ぜひ、今後も進めていただけたらと思います。</p> <p>また、掲示物についての話がありましたが、小学校には前から掲示物の工夫がいろいろとありましたが、中学校は殺風景でした。今は、美術の先生が頑張ってくださいたり、それから中学校の先生方が小学校に行く機会が出てきて、それぞれの交流が増え、刺激を受けたことから、このような流れになってきたのかなと思っています。さらに、そういったところに目を向けられる余裕が先生方にも出てきたのかもしれませんが、今井委員がおっしゃったように、かつては喧嘩や問題の後処理の生徒指導に時間がかかっていましたが、今はそれをほとんど行わずに済んでいるので、その分、先生方が別のところに力を注げるようになってきているのかなと思います。今は子供たちも落ち着いてきましたので、掲示物にしても、清掃にしても、先手を打って取組みの質を上げることで、子供たちを良くしていこうという風潮になってきたという感じがしています。</p>
今井委員	<p>ソフト面についてですが、本庄南中学校は市内で一番大きな学校であるにも関わらず、図書室の設備が少し寂しいと感じました。この部分を充実させることは大切ではないでしょうか。子供の居場所づくりにもつながるかと思います。</p>
市長	<p>ご指摘のとおりだと思います。私も、本が読みたくなるような空間づくりは大切であると感じています。制約があるとしても、その制約のなかでどうやって綺麗にしていくかということ、特に図書室については考えていきたいと思います。</p> <p>皆さんにお聞きしたいのですが、給食についてはいかがでしたか。前回の児玉中学校は自校方式の給食で、今回の本庄南中学校はセンター方式の給食でしたが、どちらもとてもおいしく、どちらかが劣っているということはなかったと感じたのですが、いかがでしょうか。</p>
富沢委員	<p>学校給食教育委員会というところで、一昨年頃から給食を試食させていただくようになって、昔とは随分変わったと感じています。給食だからといって無理して食べるという感覚はまるでなく、ご家庭でこれだけのものをお弁当として子供に持たせるのは大変だろうと感じるほどです。温かいですし。栄養学的な面だけでなく、美味しく食べられるかという面も大切ですので、本当に良くできていると思います。</p>

市長	<p>私も、学生だった当時は給食に苦勞していた記憶がありますが、今は栄養士が和食、洋食、中華というようにコンセプトに合ったものを作るようになり、良くなったなと感じています。お米もおいしかったですよね。給食センターで炊いた炊き立てのご飯を配食しています。</p> <p>他に何かございませんでしょうか。ないようでしたら、本日の議事はこれで終了とさせていただきます。それでは、これにて、進行を事務局へお返しします。議事進行へのご協力と慎重なご審議に感謝申し上げます。</p>
事務局（企画課長）	<p>皆様には、慎重審議大変ありがとうございました。</p> <p>最後にその他といたしまして、2点ご連絡いたします。</p> <p>1点目といたしまして、トルコ共和国を相手国とするホストタウン登録について、ご報告させていただきます。前回の会議にて、事前キャンプ地の誘致について覚書を結んだというご報告をさせていただきました。その後、市としましては、交流事業を進めるということから、国のホストタウン登録を目指してきたわけですが、12月28日付けでトルコ共和国を相手国とするホストタウンに登録となりましたのでご報告いたします。今後は交流事業を進めてまいります。直近では3月にトルコ共和国のブラインドサッカーの代表チームが東京で開かれる国際大会に出場する予定でして、その前1週間程度、本市にてプレトレーニングキャンプを行いたいという話がきております。そのときには、小学校、中学校の児童、生徒の皆さんにご協力いただきながら交流ができればと考えております。今後、様々な場面で交流を進めてまいります。皆様には大変お世話になりますが、どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>なお、トルコ共和国の代表チームは、過去2回、連続でパラリンピックに出場している強豪国で、現在世界ランキング6位でございますが、まだ出場権を得たわけではございません。今年の9月にヨーロッパの最終予選がございますので、応援よろしく願いいたします。1点目のご報告は以上でございます。</p> <p>2点目のご報告は、今後のスケジュールについて、事務局よりご報告させていただきます。</p>
事務局（企画課長補佐）	<p>ご説明いたします。今年度の総合教育会議の開催は、本日の第3回が最後となります。来年度の総合教育会議につきましては、基本的に今年度と同様に年3回程度の開催を予定しています。平成31年度第1回会議は、6月頃の開催を予定していますので、来年度も引き続きよろしく願いいたします。</p> <p>その他につきましては、以上でございます。</p>
事務局（企画課長）	<p>これにて、本日の会議日程はすべて終了となります。本日はありがとうございました。</p>

様式

市長

吉田 浩解

教育長

勝山 勉